



針金 勝彦
(平政会)

防災計画及び防災マップの見直し

質 防災計画の中でマグニチュード7を想定しているが、大震災を受けて防災計画及び防災マップについて、このままでよいとお考えか。見直すとしたらどの程度を想定するのか。

答 大震災を踏まえた計画の見直し等は必要と考えているが、地震規模の想定は現在、県が行っている調査結果及び、その後の県地域防災計画の見直しを踏まえて、市の地域防災計画を見直す。それまでの対策として暫定で津波ハザードマップを作成、配布し、沿岸地域の住民の安全な避難誘導に役立てたいと考えている。

スポーツ教育の必要性

質 教育現場において児童生徒のスポーツや普段の生活における行動体力、コミュニケーション能力はどのように推移しているか。またそれらに対するスポーツ教育の果たす役割について。

答 行動体力は新体力テストによると、多くの項目が全国平均を上回っており、高い水準で推移している。昨今の子供たちは、人間関係がうまく構築できないため、トラブルが深刻化することがあると思われるが、スポーツ教育は、知・徳・体のバランスの良い成長に資するものと考えている。

その他の質問事項

- 災害発生時の情報伝達
- 市内企業への復旧支援
- 新しい形のまちづくり



菅原 隆文
(よねしろ会)

東日本大震災、市の初動体制と危機管理

質 大震災時の初動体制、市民への情報提供は十分か。長時間停電を想定した対策はあったか。その後の余震に教訓は生かされたか。災害を受けない都市づくり、防災や危機管理は。

答 災害対策警戒部を設置し、防災行政無線や広報車等で津波避難広報等の対応を行った。停電対策として発電機の設置や給水、避難所を開設した。その後の余震では初期対応が迅速、的確に行われた。今後、県の調査結果や防災計画見直しを踏まえ市の防災計画を見直し、災害に強いまちづくりに取り組むたい。

「地域自治区」設置の効果と今後の方針

質 ニツ井の地域自治区、協議会で特有の問題が毎年4回以上審議され、レポートも配布されている。6年目に入った今、設置の効果や実績について検証し方向づけする時期でないか。

答 地域自治区は地域住民の意見等を市政に反映させるという観点から、重要な役割を果たしていると認識している。市としては、設置から5年が経過しており、今後、設置による効果等を検証し、市議会や地域協議会等の御意見を伺いながら方針について検討したいと考えている。

その他の質問事項

- 広範囲な災害協定都市の重要性
- 新庁舎建設、地震と津波の対策
- 県の風力発電計画への市の考え



信太 和子
(市民連合)

震災後の能代港の利活用

質 震災後、能代港の荷揚げがふえた。国の港湾政策が太平洋側に偏っており、今後日本海側と調和のとれた物流が生命線である。利活用促進と港湾整備での国・県への働きかけはどうか。

答 本市ではリスクの分散と補完性を考慮し、物流網の多重化や生産基盤等の分散など物流・生産のバックアップ機能の充実と、日本海沿岸東北自動車道早期全線開通や大館能代空港計器着陸装置強化、能代港のコンテナ貨物への対応整備などがえ物流拠点となり得るインフラの整備拡充を国県要望として提出している。

震災後の木材の供給体制

質 震災復興で木都能代にできることをすべき。商工会議所へ委託した秋田スギ販路拡大システム事業は品質・規格の統一と在庫管理一元化で大口需要に対応する目的だが、進展はどうか。

答 これまで工務店や製材工場等の実態調査を行い、昨年10月には秋田杉建築用材の部材別規格・品質基準を作成し、強度の測定方法等も規定した。この基準をもとに複数企業の製品管理・在庫管理システムを構築し、地場や大口受注に対応した良い製品をより迅速に、必要量を供給できる体制づくりを進める計画である。

その他の質問事項

- 市営住宅建てかえ
- 庁舎建設
- 北能代風力発電